

モルディブ、反インド修正（579号）

2024年 10月 石館

インド洋の島国モルディブがインドとの関係修復に動いている。2023年11月に反インドを掲げるムイズ大統領が就任し、インドからの観光客が急減したことが背景にある。観光業に依存する小国モルディブにとってインドとの関係悪化は無視できないと判断しているようだ。



面積；298平方キロ（全島
総計、東京23区の約半分）
1192の島々よりなる

人口；51.5万人（2021年）
モルディブ人38.3万人、外国
人13.2万人、いずれもモ
ルディブ在住の人口
首都；マレ

約2000年前、インド亜大陸やセイロン島から移住してきた人々が暮らし始めた。当初は仏教徒が多かったが、中東に興ったイスラム教がインド洋沿岸各地にも布教され、1153年にイスラム教に改宗し、以降スルタン（支配者、権力者を意味し、西欧での国王に相当する）により統治されるようになった。

大航海時代に入ると、アフリカ大陸南端を回ってヨーロッパ諸国がインド洋に勢力を拡大。1558年から1573年にかけてポルトガルがマレを占拠。1645年から1796年はオランダの保護国となった。欧州列強のうち、イギリスはインド洋沿岸各地に植民地を拡大。モルディブも1887年保護国として、イギリス領セイロンを通じて統治した。

1932年、最初の憲法が起草され、スルタン位が世襲制から選挙制に移行した。第二次世界大戦後、大英帝国は植民地が相次いで独立した。モルディブでは1953年に君主制が廃止され、共和制に移行。アミン・ディディが初代大統領に就任したが、一年も経たずに政権崩壊。王政復古した。

1982年7月イギリス連邦に加盟、その後親インド政権と親中国政権が交互に政権を取り揺れ動いている。

インドとモルディブの関係が冷え込んだのは、ムイズ氏が23年の大統領選で反インド・親中国の姿勢を打ち出したことがきっかけとなっている。



インド軍撤収を正式要請 「親中派」大統領、印

ムイズ大統領

同氏は医療救助などのためにモルディブに駐留している100人弱のインド軍関係者の撤退を公約に掲げ、24年5月までに実現した。

就任後にはインドより先に中国を公式訪問し、これまでのモルディブ大

統領の慣例を破った。

モルディブの主要産業は観光業と漁業である。モルディブでは政府が所有する一つの島を、一つのリゾートホテルに使用权をリースして開発を認める“1島1リゾート”のコンセプトのもと、1970年代以降に高級リゾート施設が開発されてきた。全国に1192島のうち159島がリゾート島になっている。



リゾートホテル

新型コロナ禍以前は、中国からの観光客が最も多かったものの、2022年の外国人観光客は167万人で、インド、ロシア、英国、ドイツ、イタリアの順

に観光客が訪れた。他方、日本からの観光客は多くなく、2023年には合計1万4千人で、国別では8位に留まっている。

ムイズ政権が発足以来、インドからの観光客が急減し、国別では6位に落ち込んだ。23年に3位だった中国が15万人弱でトップに浮上した。同国の年間観光収入は2022年に約35億ドルでGDPの4分の1弱を占める。この観光客の

減少は同国の経済に深刻な影響を与える。ムイズ大統領はインドからの観光客を元に戻し、さらに増やすことが必要になる。そのためインドとの関係改善を目指さなければならなくなっている。

インドからすればモルディブは元々自分たちの弟分くらいに思っており、中国のようにインド洋の要衝にあるモルディブを何とか一带一路の戦略に組み込みたいと思っておるので、インドより同国に対する対応はより積極的である。

勿論インドはモルディブがあまり中国に接近することに神経をとがらせており、この6月のモディ首相の就任宣誓式にムイズ大統領を招待した。



宣誓式に出席したムイズ大統領（左から3人目）

ムイズ大統領も宣誓式への出席の機会にインドとの関係改善を図ろうとしたと思われる。

モルディブ、反インド修正 急減の観光客 回復狙う -

モルディブで、観光業に続いてさかんな産業は漁業であり、地方では最も多くの人が従事している。2022年の同国の輸出額の99%を水産物が占めており、漁業は唯一の輸出産業と言っても過言ではない。

モルディブでは、一匹ずつ釣竿で釣る伝統的な漁法の一本釣りでカツオを漁獲



1000年続くモルディブ一本釣り漁業が切り拓く三方良し...

しており、消費対象でない他の魚種を傷つけて捕獲する可能性が低く、一度に大量に捕獲することが無いことから、持続可能な水準で漁獲できる。

2022年の漁獲量では、カツオが81.4%、キハダマグロが18.1%を占めている。

小生はもちろんモルディブに入ったことは無いが、ケニアに行くとき首都マレの空港に給油で立ち寄ったことがある。紺碧の海の色が素晴らしかった記憶がある。



モルディブの首都マレ

ある。

手前が首都マレ、先方に見えるのがマレ国際空港の滑走路

空港と首都はフェリーで結ばれている。

公式データによると、モルディブの対外債務は40億ドルを超えている。23年6月現在、中国輸出入銀行はモルディブの対外債務の22.5%を保有しており、同国最大の単独融資元になっている。

隣国スリランカは経済危機により数か月に及ぶ食料・燃料不足が発生し、政府の転覆後、22年に対外債務不履行に陥った。スリランカの二国間債務の半分以上は中国に対するもので、同国はIMFの支援を受けて債務の再編を目指している。

IMFはモルディブについて、中国を名指しはしなかったものの“大幅な政策変更が無ければ”対外的・全般的な債務危機のリスクが高い“状態が続くと述べた。またIMFは経済危機を回避するために、歳入を増やし、歳出を削減し対外借入を減らすようモルディブに要請した。債務の罫の入り込んだモルディブの今後の財政運営は中国とインドを天秤にかけて綱渡りをしていかねばならないであろう。